

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	尾張陸運(有)名古屋西物流センター	階数	地上1階
建設地	愛西市西條町大池65番3 ほか12筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	41 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 予定	評価の実施日	2017年6月30日
敷地面積	7,310 m ²	作成者	伊藤雅啓
建築面積	3,435 m ²	確認日	2017年6月30日
延床面積	3,435 m ²	確認者	伊藤雅啓

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: #DIV/0!

③上記+②以外の: #DIV/0!

④上記+: #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4.2

Q1 室内環境: 0.0

Q3 室外環境(敷地内): 2.2

LR1 エネルギー: 3.0

LR2 資源・マテリアル: 3.4

LR3 敷地外環境: 3.5

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境: N.A. 温熱環境: N.A. 光・視環境: N.A. 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

機能性: 3.0 耐用性: 4.2 対応性: 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

生物環境: 1.0 まちなみ: 3.0 地域性: 2.5

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

建物外皮の: N.A. 自然エネ: N.A. 設備システ: N.A. 効率的: 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

水資源: 3.0 非再生材料の: 3.4 汚染物質: 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

地球温暖化: N.A. 地域環境: 3.7 周辺環境: 3.2

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">12.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							建物全体・共用部		建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体			
配慮項目	独自基準	重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体							
Q 建築物の環境品質																		2.8		
Q1 室内環境																				
1 音環境																				
1.1 室内騒音レベル																				
1.2 遮音																				
1 開口部遮音性能																				
2 界壁遮音性能																				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																				
1.3 吸音																				
2 温熱環境																				
2.1 室温制御																				
1 室温																				
2 外皮性能																				
3 ソーン別制御性																				
2.2 湿度制御																				
2.3 空調方式																				
3 光・視環境																				
3.1 昼光利用																				
1 昼光率																				
2 方位別開口																				
3 昼光利用設備																				
3.2 グレア対策																				
1 昼光制御																				
3.3 照度																				
3.4 照明制御																				
4 空気質環境																				
4.1 発生源対策																				
1 化学汚染物質																				
4.2 換気																				
1 換気量																				
2 自然換気性能																				
3 取り入れ外気への配慮																				
4.3 運用管理																				
1 CO ₂ の監視																				
2 喫煙の制御																				
Q2 サービス性能																0.43				3.6
1 機能性																				
1.1 機能性・使いやすさ																				
1 広さ・収納性																				
2 高度情報通信設備対応																				
3 バリアフリー計画																				
1.2 心理性・快適性																				
1 広さ感・景観 (天井高)																				
2 リフレッシュスペース																				
3 内装計画																				
1.3 維持管理																				
1 維持管理に配慮した設計																				
2 維持管理用機能の確保																				
2 耐用性・信頼性																3.0		0.52		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振																3.0		0.48		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																3.0		0.80		
2 免震・制震・制振性能																3.0		0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数																4.0		0.33		
1 躯体材料の耐用年数																3.0		0.25		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																5.0		0.25		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																5.0		0.10		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																-		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																4.0		0.17		
6 主要設備機器の更新必要間隔																4.0		0.25		
2.4 信頼性																1.5		0.19		
1 空調・換気設備																3.0		0.25		
2 給排水・衛生設備																1.0		0.25		
3 電気設備																1.0		0.25		
4 機械・配管支持方法																1.0		0.25		
5 通信・情報設備																-		-		

3 対応性・更新性				4.2	0.48			-	4.2
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			平屋のため階高なし	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.09	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり			3900N/m ²	4.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				4.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		-	-			-	
2 給排水管の更新性			屋外消火栓のため屋外配管	5.0	0.23			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.15			-	
4 通信配線の更新性				-	-			-	
5 設備機器の更新性			建物機能を維持したまま更新・修繕可能	4.0	0.31			-	
6 バックアップスペースの確保			消火ポンプ所は屋外計画	4.0	0.31			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー					0.40				3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制					-				-
2 自然エネルギー利用					-				-
3 設備システムの高効率化					-				-
4 効率的運用				3.0	1.00				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				-
4.1 モニタリング				3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				-
集合住宅の評価					-				-
4.1 モニタリング					-				-
4.2 運用管理体制					-				-
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.4
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0
1.1 節水					-				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00				-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				-
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63				3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生砕石・基礎、地中梁、外構舗装、排水施設、擁壁等の路盤	3.0	0.21				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					-				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+塗装仕上、鉄骨ボルト接合	5.0	0.25				-
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆使用	5.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				-
1 消火剤					-				-
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	1.00				-
3 冷媒					-				-
LR3 敷地外環境					0.30				3.5
1 地球温暖化への配慮		①			-				-
2 地域環境への配慮				3.7	0.50				3.7
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない	5.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.0	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自			-				-
2 汚水処理負荷抑制					-				-
3 交通負荷抑制		独自	駐車場有り。車両動線を考慮した配置計画としている。	4.0	0.50				-
4 廃棄物処理負荷抑制			廃棄物処理委託	4.0	0.50				-
3 周辺環境への配慮				3.2	0.50				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				-
1 騒音		独自		3.0	1.00				-
2 振動		独自			-				-
3 悪臭					-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				-
1 風害の抑制				3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制					-				-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制				4.4	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			専門家による検討体制のほか過半を満たしている	5.0	0.70				-
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				-

重点項目スコアシート

尾張屋運(有)名古屋西物流センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:12.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 尾張陸運(有)名古屋西物

計画上の配慮事項	
総合	地球環境負荷の低減に取り組んだ。
Q1 室内環境	居住エリアなし。
Q2 サービス性能	ゆとりある空間とし、フレキシビリティ性の向上に配慮した。 耐震性能は建築基準法に定められた耐震性を有するものとした。
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化指数12.7%、緑被率6.7%を確保した。
LR1 エネルギー	省エネ計画対象外建物だが、高効率な照明器具を採用し、エネルギーの削減を図った。
LR2 資源・マテリアル	鉄骨現し部の仕上を塗装とする等、部材の再利用可能性の向上に配慮した。
LR3 敷地外環境	駐車場を確保し、交通負荷抑制に配慮した。
その他	特になし。